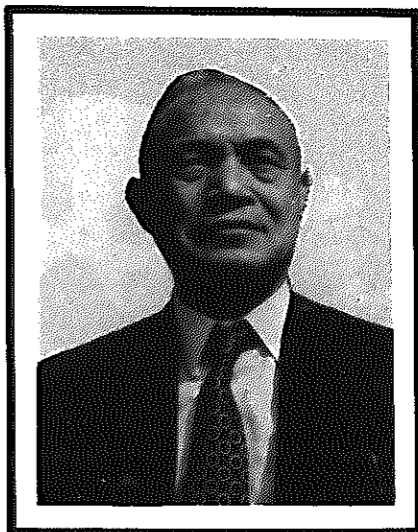


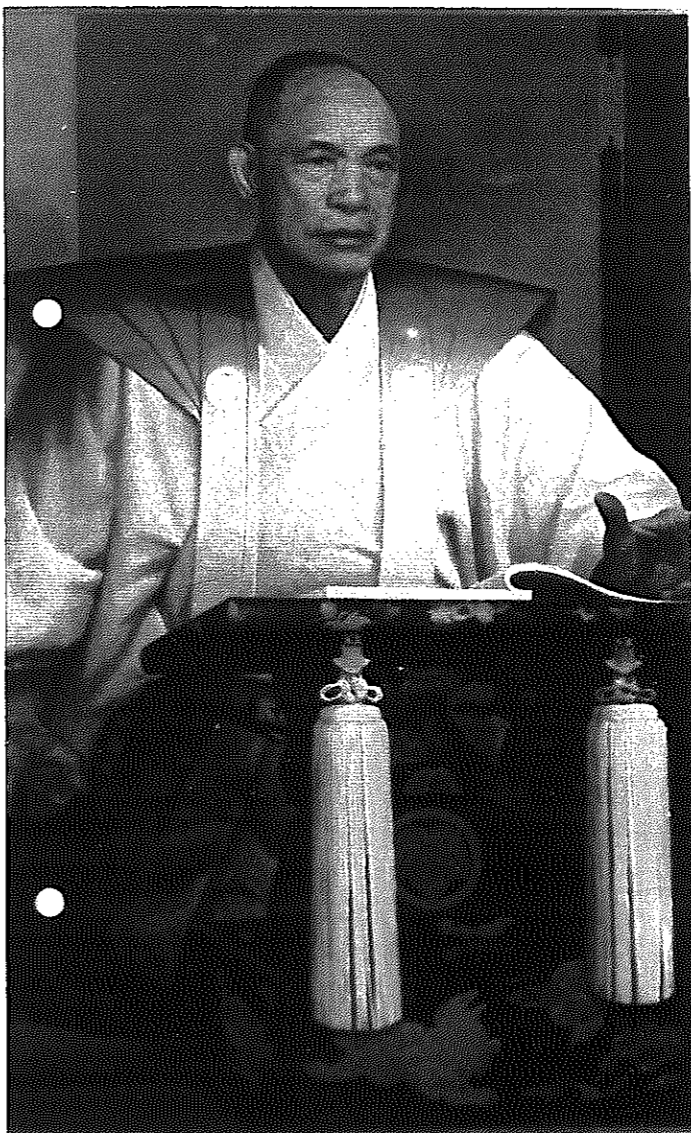
# 名誉市民加藤清二郎氏ご逝去

## 一代で聚楽チェーンを築き上げた日本の食堂王

名誉市民の加藤清二郎氏（84歳・能登出身）が九月二十四日午前二時二十分、心不全のため、東京大学付属病院で逝去されました。一代で聚楽チェーンを築き上げ、日本の食堂王と称された加藤氏は、ふるさと白根の発展にも力をそそがれました。故人のご冥福をお祈りすることも、生前の面影をしのぶことにしましょう。



在りし日の加藤清二郎氏



生涯最高の趣味となった義太夫。昭和48年、素人義太夫最高の栄誉「横綱」の称号を受ける（二科会審査員 森田信夫作）



弥彦ロープウェイが開業し、楢橋運輸大臣を案内する加藤氏（昭和三十三年）

### ふるさとをこよなく愛された人

突然の訃報を、みなさんにお届けしなければならぬことは、大変残念です。郷土白根の偉大な慈父を、今、失ってしまいました。加藤清二郎氏は、人一倍白根市をこよなく愛されていました。名誉市民証伝達式の際、あいさつの中で、「私がここまでこれたのも、郷土あつてのおかげです。幾多の困難に出合うたび、ふるさとの景色や知人、友人を思い浮かべ、それを支えに血のじむ努力を重ねました。父である私の亡き後も、私にかわり、いつまでも郷土のために尽くしてほしい。このことを父の私から、長男（健一郎氏・株式会社聚楽社長）のお前に、心からお願いをしておきます」と、述べておられました。

また、名誉市民となられて初めての里帰りのとき（五十一年十月）のあいさつでも、「かけがえのない大切な生まれ故郷であり、心から愛して止まぬ白根市から、名誉市民という栄誉ある称号をたまわり、終生の感激」と、お礼を述べられておられます。

こうした加藤清二郎氏を「郷土が誇るりつばな人」として、親から子へと伝えていきたいものです。

### おいたち

生家は、「材清」の屋号で材木商を営み、尋常高等小学校卒業後、海産物問屋へでつち奉公。サハリン（樺太）で鉄道建設に従事。土木作業員、住み込み配達夫などを経て、大正十三年、二十五歳の若さで須田町食堂を創立。

以来、一代で食堂やホテルの「聚楽チェーン」を築き上げ、「日本の食堂王」と称されていました。今年五月、健康上の理由から社長を退き、取締役会長に就任されましたが、この間、三十九年から五十五年まで東京新潟県人会長を務め、四十九年には勲三等瑞宝章を受賞、五十一年三月、名誉市民第一号の称号を贈られました。

### 加藤清二郎氏の死を悼む

白根市長 吉沢正五

白根市名誉市民故加藤清二郎殿のご逝去にあたり、謹んで哀悼の意を表し、弔詞を捧げます。あなたは、明治三十一年、郷里白根の加藤家の二男として生をうけられ、努力の末に、「日本の食堂王」と称されるまでの実業家になられましたことは、世人の認めるところであります。常に人を想い、郷里の発展を念じ、地元のために数多くの業績を残してくださいました。自社への新潟県人や白根市出身者の優先採用、白根市関係への多

### 友との思い

外川敬二さん（能登・84歳）

家が近かったことから、一緒にそろばん塾にも通いました。算術が得意でほとんど暗算で片付けるくらい、頭が良かったですね。きかん坊で、先生に怒られて残された居残り組の常習者でしたよ。金比羅様の屋根に登って花火を上げて、大目玉を食ったことなど思い出はつききいすね。

小山三一郎さん（中央通り・83歳）

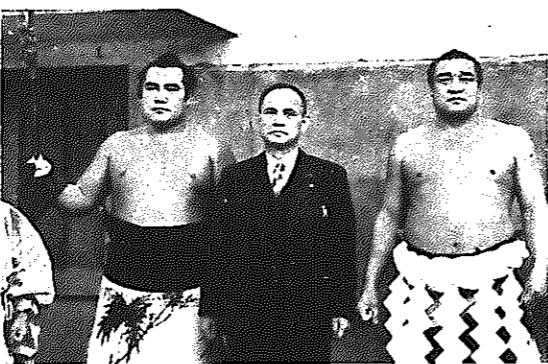
同級生だった彼は、大変なきかん坊のガキ大将で、何をやるにもめだつ男でした。東京からの波乱万丈の事業経営ぶりは話に聞いていました。同級会で顔を会わせると、きまつて一時間も続く義太夫を歌うんですよ。年をとってからは、かなりうまくまりましたけどね……。

保倉三之丈さん（魚町・82歳）

子供のころは、学年も町内も違うため、良きは覚えていないんですが、ガキ大将ぶりの目立つ人でしたね。青年時代は遊び友だちとして良く遊び歩いたものです。白根に帰られると、私の家にも顔を出していただけるんですが、最近、体をこわされたと聞いて心配していたところでした。



白根尋常高等小学校の卒業記念写真（円内が加藤氏）



三十六代横綱、羽黒山と、後援会長の加藤氏（昭和十六年）



東京都世田谷区に加藤氏の自宅で、名誉市民証の伝達式（昭和51年6月18日）